

歴史的資源を活かしたまちづくり

令和5年1月

神戸市会 未来都市創造に関する特別委員会

目 次

	頁
■ はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
■ 提 言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
【資料編】	
■ 参考人との意見交換・・・・・・・・・・・・・・・・	9
■ 委員会の審議経過・・・・・・・・・・・・・・・・	15

■ はじめに

未来都市創造に関する特別委員会は、神戸市会初の試みとして、市当局が提案する政策を質すだけでなく、議会の立場から独自の政策提案・提言を行うことを目指して、平成26年5月に設置されました。

本委員会では、新たな時代の神戸のまちづくりはどうあるべきかについて提言するため、特に都心・三宮再整備など神戸の将来に大きく影響する課題について、専門的知見などを活用しながら調査・議論を行い、これまで5回にわたり市長に提言を行ってきました。

今年度は、令和4年4月の提言書「様々な危機にしなやかに対応できる神戸のまちづくり」で取り上げた「神戸ならではの歴史や地形を活かしたまちづくり」をさらに掘り下げ、「歴史的資源を活かしたまちづくり」について、幅広い観点から調査を行い、委員間討議を経て本提言をとりまとめました。

本提言が、新たな時代に、神戸がより一層輝き、飛躍するための一助となることを期待いたします。

令和5年1月

(未来都市創造に関する特別委員会)

委員長：山本 のりかず (日本維新の会：北区)

副委員長：しらくに高太郎 (自由民主党：垂水区)

理事：吉田 謙治 (公明党：西区)

住本 かずのり (日本維新の会：須磨区)

味口 としゆき (日本共産党：灘区)

かじ 幸夫 (立憲民主党：西区)

香川 真二 (つなぐ：西区)

委員：辻 康 裕（日本維新の会：東灘区）
岡 村 正 之（自由民主党：中央区）
諫 山 大 介（共創・国民民主：灘区）
朝 倉 えつ子（日本共産党：北区）
平 野 達 司（自由民主党：兵庫区）
徳 山 敏 子（公明党：北区）
山 口 由 美（自由民主党：西区）
菅 野 吉 記（公明党：兵庫区）

■ 提 言

神戸には、様々な時代の史跡から伝統文化まで、市内全域に歴史的資源が豊富にある。本委員会では今年度、下谷上農村歌舞伎舞台、西国街道、湊川神社、花隈城跡について実地視察を行ったが、市内にある歴史的資源には観光資源として活用されているものがある一方で、市民や市職員にもその価値があまり認知されていないものが多いと感じている。現在、市として神戸歴史遺産の認定・活動支援や、土木遺産などの近代化遺産の認知度向上に努めているのは理解しているが、どうしても個々の取組みにとどまり、その魅力を総合的・戦略的に発信できていないのではないかと感じる。今後は、市が主体となって市内に点在する歴史的資源の効果的な活用戦略を検討し、神戸のブランド力を高めるような施策に反映していくべきと考える。

市全体で有機的に連携しながら神戸独自の自然や文化と歴史的資源の魅力を積極的に発信していくことで、市民にはシビックプライドの醸成を、対外的には観光誘客を促し、地域の活性化や持続可能なまちづくり、さらには新たな神戸の魅力の発見や創出につなげていけるよう、本委員会として以下について提言する。



下谷上農村歌舞伎舞台



花隈城跡

1. 産学官民の連携による協議会の創設

歴史的資源を活かしたまちづくりを行う場合、行政だけでなく市民、事業者、専門家のほか、神戸にゆかりのある人などを含めた多様なステークホルダーの存在を意識する必要がある。

広島市で活動する「まちなか西国街道推進協議会」は、10年後、20年後の未来を見据え、西国街道の歴史・文化を後世に残していくため、様々な背景を持つ地域住民や有識者、行政等が集まり、課題や情報を皆で共有しながら、互いに知恵を出し合って活動していた。その活動は、様々なイベントの開催や関連商品の開発にとどまらず、西国

街道の歴史等を次世代に伝えるための出前授業や、道路整備等での市との連携（マンホールやサインボードの共同制作）など多岐にわたり、同じように西国街道を有する神戸でもぜひ取り入れたいアイデアが多くあった。

神戸でも、貴重な歴史的資源を活かすまちづくりにあたって、産学民の各分野の知見を直接市の施策に反映させる仕組みを作るため、市主導のもと、「(仮称)神戸歴史資源活用協議会」を創設していただきたい。

市が設置する協議会には、学識経験者や地元代表のような方が参加する事例が多いが、地域の歴史や文化を活かしたまちづくりについて協議する際には、郷土史家や、地域の歴史愛好家、観光案内ボランティア等の市民グループ、NPO等との協働が欠かせない。市の政策や計画を追認する場ではなく、主要なテーマについては部会を設置したり、コーディネーターを配置したりして、それぞれの立場や視点から積極的に意見交換や具体的な提案を行う場としてもらいたい。



広島西国街道のロゴ

〔協議テーマ例〕

①歴史的資源の活用戦略

歴史的資源を活かしたまちづくりで神戸の魅力を積極的に発信することで、観光客の増加だけでなく、地域住民に自分の住む地域の魅力を再発見してもらい、地域への帰属意識やシビックプライドを感じてもらうことも期待できる。そのための仕掛けづくりとして、例えば、市内に点在する史跡をストーリーでつないで巡る神戸再発見ツアーや、何年もかけて市内全ての歴史的資源を訪ねて回るウォークラリーを企画すれば、あまり認知されていない歴史的資源も活用することができ、観光客だけでなく市民にも楽しんでもらえるのではないかと。異なる時代の歴史的資源をテーマやストーリーでつなげば、時代を行き来しているようにも感じられ、様々な時代の神戸を何度も楽しむことができ、より魅力的な観光資源になる。また、神戸の歴史について事前知識のない外国人観光客にも十分楽しんでもらえるための仕掛けも必要である。国や宗教など属性にも留意しながら、近世までのいわゆる日本らしいものと、近代以降の、開港に代表されるモダンなものが混在する、神戸独自の特徴を分かりやすく示し、関心を持ってもらうための工夫がもっとできないか。情報の発信方法についても、受け取る側の属性・年代に合わせ、書籍等の紙媒体からデジタルサイネージ、YouTube等の動画配信、ARやVRの活用まで幅広く重層的に取り組むべきである。



兵庫大仏

②西国街道を活用したまちづくり

神戸には西国街道という素晴らしい歴史的資源があるが、現在では街道が途中で分断されるなど、街道らしい街並みが残っていない「見えない街道」となっている。西国街道は東灘区から垂水区まで神戸市を東西に横断しているにもかかわらず、現状では、一部の区間での取組みはあるものの、市民にもあまり浸透しておらず、観光資源として十分に活用できていないと感じている。そこで、当時の街道の様子や周辺の街並み、人々の暮らしを、市民や観光客に実感してもらえよう、例えば、絵や地図による街並みの再現展示や、二次元バーコードやAR、VRの活用、特別な舗装やサインボード、マンホールの設置などにより、市内全域で街道の可視化に積極的に取り組んでいくべきではないか。同時に、関西だけでなく、広島など西国街道を有する他の地域とも広域的に連携して、共通した情報発信を行うことも検討すべきである。

また、こうした課題解決のため、協議会に西国街道部会を設置し、関心を持つ学生や地域住民、歴史愛好家等にも参加してもらって企画を検討する場としていただきたい。市内の大学・短大とも連携することで、新たなアイデアが生まれることが期待できる。



西国街道道標（兵庫区新開地）

③戦災等に関する歴史の継承

広島では、通常の平和教育に加え、被爆体験や平和への思いを後世に伝える語り部「被爆体験伝承者」の養成や、毎年8月の被爆電車の特別運行など、平和について考えてもらう取組みを行っている。神戸でも戦災等の資料を市のウェブサイトで公開しているが、歴史を風化させることなく、次世代の子供たちが平和の尊さについて学べる様々な取組みに前進させていくことが必要だと考える。

また、戦災等の際に地域でどのような被害が出て、どう対応したのかを知ることで、未来のまちの安全にどんな対策が必要なのかを知ることができる。過去の歴史を未来の地域課題解決につなげられるような発信方法を検討していただきたい。



広島電鉄の被爆電車（左）と旧神戸市電（右）

④大河ドラマなどを契機とした歴史的資源の活用

古くから畿内と西国を結び、海と山の迫る細長い地形を持つ神戸では、その地理的な環境から、歴史上、時代の転換点になるような戦いや事件が頻繁に起こっており、大河ドラマで取り上げられるものに神戸が関わっていることが多い。大河ドラマは、放映と同時に関連地域で観光需要が喚起され、直接的な集客に結びつくなど影響が大きいと言われている。市民にとっても神戸の歴史を再認識する機会となるのではないかと。観光資源として、放映終了後も継続的な集客に結びつけるためには、市として一過性ではなく重層的な戦略を立てて取り組んでいくことが必要となる。同様に、朝ドラなども効果的に活用することで神戸の魅力を発信できるはずであり、積極的な観光戦略の検討が求められる。



大楠公（楠木正成）像

⑤歴史的建築物の活用

近年、全国で歴史的建築物を活用したまちづくりが進んでいる。神戸でも歴史的建築物の保存・活用に取り組んでいることは理解しているが、空き家対策も見据え、所有者だけでなく、施設を利活用するNPOや民間等も支援するなど、柔軟に取り組んでいくべきである。神戸の歴史を守りたいとの市民の思いを踏まえつつ、民間等による利活用を組み合わせることで事業性を確保し、持続可能なまちづくりを支援する仕組みを検討していただきたい。神戸独自の歴史的建築物を大切に次の世代に引き継いでいくとともに、市外からの集客などにも結びつくよう有効活用していく方策をさらに検討していく必要がある。

⑥デジタルアーカイブの開設

→「2. デジタルアーカイブ「(仮称)神戸歴史図書館」の開設」へ

2. デジタルアーカイブ「(仮称)神戸歴史図書館」の開設

現在、神戸歴史遺産、土木遺産をはじめ多くの歴史的資源や関連資料が、神戸市のウェブサイト上で紹介されている。これらの情報は担当する所管ごとに、文化財保護や観光への活用などそれぞれの目的に沿った情報発信となっている。

歴史的資源を活用して神戸の魅力をより効果的に発信していくためには、管理主体にこだわらず、歴史的資源の情報を一元化し、様々な時代の史跡や伝統文化といったテーマから、開港と外国人、戦災・震災（平和教育）といったテーマまで、神戸の歴史的資源に関する情報を集約したデジタルアーカイブ「(仮称)神戸歴史図書館」を「(仮称)神戸市歴史公文書館」のウェブ上に開設していただきたい。あまり知られていない歴史的資源の発掘や発信には郷土史家や歴史愛好家、地域住民等の協力を仰ぐこととし、

資料や写真の掲載だけでなく、関係者のインタビューや、郷土史家等による市内の史跡ガイド等も動画で発信すれば、より幅広く市内の歴史的資源の魅力を伝えられる。また、利用者が双方向に交流できる仕組みを作れば、新たな活動が生まれることも期待できる。アーカイブの構成は、観光資源としての魅力を発信するだけでなく、未来に向けた地域の課題解決にもつながるように発信方法を工夫していただきたい。

現状では、様々な場所に神戸の歴史的資源に関するコンテンツが存在しているため、それらを集約し、国内外の誰でもどこからでもアクセスできる形にすることで、観光客はもちろん市民にとっても新たな神戸の魅力に関心を持ち、その地域を訪れようというきっかけづくりになるのではないか。

〔その他の収録テーマ例〕

①鉄道遺産（神戸市電）

神戸市電は、市民や鉄道ファンだけでなく、一般の観光客にとっても魅力的な観光資源になる。交通局などの保有する資料等に加え、神戸市民や鉄道ファンにも情報を募り、デジタルアーカイブとして集約して発信すべきである。また、2024年の神戸・大阪間鉄道開通150年に合わせて、市内で保存されている市電本体の一般展示や、市電のツートンカラーにラッピングした市バスが市電路線を走るイベントなどを企画し、その様子もデジタルアーカイブで紹介していただきたい。



神戸市電（御崎公園）

②鉄道遺産（その他）

神戸・大阪間鉄道開通150年に合わせて、開通当時欧米でも珍しかった川底トンネル（住吉川隧道・石屋川隧道）や、日本で残る最古の旋回橋のある和田岬線などの鉄道遺産や、当時、住吉駅が有馬温泉の最寄駅だったことから今も住吉周辺に残る有馬道の道標など、鉄道に関連した様々な歴史的資源をデジタルアーカイブで紹介し、観光資源としてアピールしていただきたい。



蒸気機関車 D51（神戸駅）

③土木遺産

神戸には、布引五本松堰堤や湊川隧道など世界に冠たる土木遺産が多くあり、市のウェブサイトでも紹介されているが、市民にその魅力が十分認知されているとはいえない。管理主体にこだわらず、市内の土木遺産をそれぞれのストーリーで編集し直してデジタルアーカイブで紹介し、国内外にもっと積極的に発信していくべきである。



湊川隧道（会下山トンネル）



布引五本松堰堤

令和4年度 未来都市創造に関する特別委員会 参考人との意見交換

■令和4年11月17日「歴史的資源を活かしたまちづくり」（園田学園女子大学名誉教授 田辺 真人 氏）

① 大項目	② 中項目	③ 委員意見・質問	④ ③に対する参考人の意見
歴史資源を活かしたまちづくり	歴史の活用	地域の歴史は、観光資源として魅力があることはもちろんだが、それに加えて歴史を知ること、純粋にノスタルジーを感じるだけでなく、その時代のライフスタイルや考え方を、現在そして未来の魅力的・理想的な暮らしにつなげていけるという意味があるのではないかと。そういう観点で、歴史というものがどういう意味を持つのか、改めて考えてみる必要があると思うが、ご意見を伺いたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・そもそも歴史とは、無数にある過去の事実のうち、ある時期、ある場所で、ある人にとって意味があり、未来に影響を与えた事実のことをいう。 ・関西では、1185年、1596年に大地震の影響を受けた。その間隔は約400年で、1596年から約400年後は1995年となる。厳密な予知ではないが、このことから、少なくとも2400年頃は何か起こるかもしれないと注意した方がいいということが、歴史から読み取れる。 ・1596年の震災時の記録では、大阪・堺・京都等では建物が崩れて大勢の人が亡くなったとあるが、神戸だけが大火災となっている。神戸は傾斜が急なので川に水がなく、阪神・淡路大震災の際も畳で無理やり川を堰き止めて火事を消した。こうした体験から、神戸では水で火を消すことが未来のまちの安全のために必要だと、歴史が教えてくれている。 ・例えば灘区の城ノ下通は、かつてあの上に摩耶山城という城があったから城ノ下という地名になった。また、現在ある道路は、昔の人々が生活するのに便利に使っていた峠や道が大半で、元々道がなかった所に計画して造った芦有道路などは歴史的な背景もなかったのでそれほど交通量が多くない。 ・歴史の果たす役割の3分の1はノスタルジーで、残りの3分の1は現在の問題を解決する手がかり。今直面している問題は全て歴史の中に原因があり、現在の問題を解決するには歴史を振り返るのが手っ取り早いと言える。
	広報・発信方法	まちづくりという観点で歴史資源の活用について考えると、一過性のイベントで終わらせるのではなく、近隣に住む市民にも関心を持ってもらい、上手に巻き込んでいく必要があると思うが、どのような工夫が考えられるかご教示願いたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・市外から観光客を集客するだけでなく、市内に住む人たちに誇りや愛着を持ってもらうための施策も大事である。 ・ガイドブックのように本にまとめる形でもいいし、若い人向けならユーチューブがいいと思う。兵庫津周辺ではいろんな所に二次元バーコードをつけて、それを読み込んで説明を聞いてもらうというやり方をしている。受け取る側の年代によって得意・不得意があるので、映像も含めて、発信する手段はできるだけいろいろと活用すべきではないか。
	インバウンド対策	今後、神戸空港が国際化して、外国人観光客に神戸の歴史資源を見てもらうことは非常に大事なことだと思う。日本の歴史について事前知識のない外国人に最初の取っかかりになるようなものが必要になると思うが、誘導する手法についてアイデアがあればご教示願いたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば、オーストラリアのような平らな国の人にとっては、布引の滝のような滝は珍しい。日本は本当に凸凹の多い国なので、そういう国の人にとっては経験できないような自然がある。 ・兵庫津ミュージアムのような建物を外国人は喜び、そういう場所から観光を始める。外国人は兵庫大仏も驚くので、併せて鶴越の大仏まで連れて行くのもいいのではないかと。歴史的なもの、現代のモダンなものを組み合わせると楽しいと思うので、それが大事。 ・外国人観光客向けにぜひPRして欲しいのが有馬芸妓で、兵庫県では有馬にしか残っていない。 ・外国人観光客向けの観光コースを企画することがあればいつでも相談して欲しい。 ・いずれにしても、外国語（英語に加え、中国語、韓国語、スペイン語）の情報は必ず出すべき。

① 大項目	② 中項目	③ 委員意見・質問	④ ③に対する参考人の意見
観光資源の活用	西国街道の街並みや暮らしの再現	当時の神戸の西国街道や周辺の街並みがどんな様子で、人々が西国街道沿いでどんな風に生活していたのかを、市民や観光客に実感してもらえるような工夫ができないか、ヒントや他都市の事例をご教示願いたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・どの時代・時期を切り取るのか、時代によって西国街道や周辺の街並みの様子は違う。 ・三重県の関では、江戸時代の終わり頃の建物が複数残っていたので、それに合わせて街並みを整備し、宿場町として観光地にしている。 ・神戸でも明治以前から、兵庫津と、元町6丁目から大丸まで（今の元町本通り）は家がずっと並んで相当大きな町場を形成していた。兵庫津ミュージアムの1階には、明治初め頃のこうした街並みを絵にして展示している。 ・堺は、神戸と同じように昭和20年の空襲で木造の建物がほぼ壊滅したので石造りのものしか残っていないが、千利休が生まれた場所と明治時代の与謝野晶子の生まれた家の間に「利晶の館」という博物館施設を造り、1階のホールに江戸時代の堺のまちの絵地図を展示するなど、観光資源としての活用已成功している。 ・JR神戸駅前再整備の中で街道自体を復元するのは無理だが、例えば旧西国街道の部分の舗装の色を変えるなど、そこが旧西国街道だと分かるようにするだけでも違うのではないか。このほか、JR三ノ宮駅東のダイエーの山側に西国街道の碑と説明板がある。元町4丁目のまちづくり会館を出た所にも西国街道の説明板がある。このように西国街道の説明板を設置するのも意味がある。
	西国街道の広報・発信方法	今でも西国街道沿いに案内看板が設置されている所があるが、近代的なデジタルサイネージやVR、アプリの活用など、打ち出し方のヒントがあればご教示願いたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・現在は様々な発信方法があるが、受け取る側の年代によって得意・不得意がある。様々な世代を網羅できるように、発信する手段はできるだけ幅広く活用して併用していくべき。
	城	(市内の歴史的資源を活用したまちづくりの具体的なアイデアについて)	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的資源として、まず目立つものに城がある。兵庫県は城の数が日本一で、神戸市内だけで103か所の城が確認されている。その中で、城主の名前やどんな出来事があったかが分かっている、構造も地形が少し残っているといったものが30か所ほどある。 ・御影城（東灘区）：城ノ前、綱敷天神、弓弦羽神社、石屋川・新田川・深田池・天神川 ・摩耶山城（灘区）：城ノ下通 ・滝山城（中央区）：城山、松永久秀、三好長慶 ・花隈城（中央区） ・兵庫城（兵庫区）：池田恒興 ・丹生山城・淡河城など（北区） ・会下山（兵庫区）：楠木正成の陣跡（会下山） ・松岡城（須磨区）：飛松が丘、勝福寺、太平記、足利尊氏 ・福中城・枝吉城（西区）：高山右近 ・例えば、市内の30か所の城をめぐるスタンプラリーを企画するのも面白いのではないか。それぞれ城の近くの店舗等にスタンプを置いてもらい、御朱印帳のように1回100円で押してもらえば、店の人も潤い、観光客も達成感が生まれる。今、西播磨で山城のスタンプラリーが非常に人気である。 ・以前に交通局に相談を受け、市バス・地下鉄の乗客数増加を目指して、一宮神社から八宮神社までのラリーを企画した。その時も参加者の達成感が必要だからと、各社務所にスタンプを置いて1回100円で押してもらう形にしたが、最終的にスタンプ帳を1万部発行した。

① 大項目	② 中項目	③ 委員意見・質問	④ ③に対する参考人の意見
観光資源の活用	滝	(市内の歴史的資源を活用したまちづくりの具体的なアイデアについて)	<ul style="list-style-type: none"> ・六甲山の南の断層に沿って、滝めぐりのスタンプラリーをするのも面白いかもしれない。 ・突き上げの断層で六甲山地ができており、川は断層ができたなら滝となり落ちる。 ・生田川の滝が布引の滝で、平安時代の終わり頃には関東の華厳の滝などはまだ知られておらず、日本一は那智の滝、布引は日本で第二の滝だと源平盛衰記にも書かれ、和歌も多く詠まれている。 ・宇治川の断層面が山手短大の校舎の北側にあり、あまり見えないが、山手の短大の校舎の北側に滝が1つある。 ・天王谷川では、祇園の奥に大きい滝があり、神が宿る場所として神戸駅から鈴蘭台に行く路線バスの停留所に高座という所があるが、かつて高座の滝という大きな滝があった。昭和13年の阪神大水害で崩れたらしい。 ・石井川には千鳥の滝という江戸時代の名勝がある。 ・布引は新幹線の駅から歩いて10分で行けるので、布引の滝を中心にこうした滝をめぐるラリーをしてはどうか。観光に使われないのはもったいない。
	土木遺産		<ul style="list-style-type: none"> ・神戸は世界に冠たる土木の文化遺産がある。神戸市が明治22年の4月1日に誕生した直後に、上水道の建設と運河の建設と湊川の付け替えという3大土木事業を民間の力を活用しながらやった。 ・布引上水道周辺の施設は、日本で最初の上水道用の施設で国の重要文化財である。 ・烏原の水源地にはかつて烏原村という村があり、全村移転をするため、布引より完成が遅れた。つまり烏原村は、ダムの中に沈んだ村の第1号になる。こういうストーリーで、日本遺産に登録する動きが出てきてもいいのではないか。 ・兵庫運河は日本で最大規模の運河だが、小樽運河などと比べるとまだまだ知名度が低く、PR不足である。 ・湊川隧道は1900年に完成したが、当時の世界のダムリストの中でビッグ10に入るダムで、世界最大級のもだった。毎年11月18日前後に、湊川隧道保存友の会がイベントを開催し、隧道の公開をしているが、本来は神戸市を挙げて、日本中に発信する必要があるのではないか。
	峠・道		<ul style="list-style-type: none"> ・白川峠や、魚屋道、有馬街道、住吉川の上流にある五助堰堤(砂防堰堤、登録有形文化財)などの魅力的なルートを使って何か企画できるのではないか。奈良県では柳生街道(古道・峠道)が観光地として成功している。 ・六甲山頂にある一軒茶屋の東に「石の宝殿」という雨乞いの聖地がある。今でも水不足の時に周辺自治体の水道関係者が訪れたり、梅田の新地の人たちが水商売の神様としてお参りに来ている。
	歴史上の人物に関わる墓、石碑、銅像等		<ul style="list-style-type: none"> ・市内には歴史上の人物に関わる石碑(墓・顕彰碑・モニュメントなど)が多くあるので(例:楠木正成、足利尊氏、新田義貞、豊臣秀吉・ねね、水戸光圀、エルビス・プレスリー、モーツァルトなど)、これらをめぐるツアーを企画してもいいのではないか。

① 大項目	② 中項目	③ 委員意見・質問	④ ③に対する参考人の意見
観光資源の活用	言い伝え、地名等の活用	(市内の歴史的資源を活用したまちづくりの具体的なアイデアについて)	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの土地にまつわる言い伝えや地名だけでもいろいろ活用できるのではないかと。未来の市民のために、地域の人たちも喜び、市外からも楽しみに来てもらえるようなことを具体化して企画して欲しい。
	SDGs	<p>市内各地の歴史資源を1つのテーマやストーリーでつないで打ち出していくことで、より魅力的な観光資源になるのではないかと。その際には、同じ時代だけではなく、時代を超えた様々な歴史資源をつないで、あたかも様々な時代を回遊している、様々な時代を行き来しているように感じてもらえる仕掛けが作れたら面白いと思う。特に神戸ならではの視点に立ったテーマやストーリーを打ち出すという観点で、参考になるような歴史資源とそれにまつわるテーマやストーリーがあれば御紹介いただきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・神戸市内には歴史的資源が無数にある。 ・持続可能という観点でいえば、淡河川疎水のサイフォンなど、電力を使わずに水を連通管の原則で流している。 ・明治時代に、湊川と生田川を堰き止めて布引の貯水池と烏原の水源地を造り、大正になって宝塚と三田の間に千苺の水源地を造った。千苺の水源地の水は、西宮の上ヶ原の上水道で浄化して神戸へ来るが、一切電力を使わず、千苺から上ヶ原まで自然流下になっている。浄化された後の水が神戸へ来るための導水路を地下に埋没させて、上に建物を建てたらいざというときに困るので、建てないように道路にしたのが灘区の水道筋である。 ・エネルギーの節約、持続、保存という観点で、100年以上前にそういうことをやっていたというのはすごいことで、こういうこともPRしていくべきではないか。 ・兵庫運河ができた時に、船が通る上に和田岬線を走らせたが、船が通る時に困るため回転橋を造った。今、日本で残っている一番古い回転橋が和田岬線と兵庫運河の交差点にある。現在はコンクリートで固定しているが、ぜひこの回転橋も活用すべき。
	市電	<p>今後、神戸市電を過去のシンボリックなものとしてクローズアップしていくべきだと思っている。市民のシンボリックな思いを醸成し、神戸市電を観光資源として活用するためのアイデアがあればご教示願いたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・神戸の市電は日本で一番センスがよかった。車両の色がツートンカラーで、全国どこに行ってもあんな電車は走っていなかった。今、ヨーロッパでは電車が市内交通の主役になって復活しているが、ああいう新しいファッショナブルな車両と比べても、神戸の市電は遜色なかったと思う。 ・ただ、これだけ車が普及している状況の中で市電を復活させるのはなかなかスムーズにいかない。路線を1か所決めて走るといふようなことを考えて、それに賛同してくれる人が増えたら、また路線を延ばしたり増やしたりしてはどうか。 ・かつて、実現はしなかったが、須磨区天井川の河川敷を走らせようという話が出たことがある。神戸市電は今見ても非常にファッショナブルなので、いい観光資源になると思う。

① 大項目	② 中項目	③ 委員意見・質問	④ ③に対する参考人の意見
観光資源の活用	大河ドラマの活用	(市内の歴史的資源を活用したまちづくりの具体的なアイデアについて)	<ul style="list-style-type: none"> ・神戸では地理的な環境から、歴史上の天下分け目の戦い(古代と中世の変わり目には一ノ谷の戦い、中世前期と後期の変わり目に湊川の戦い、中世と近世の変わり目には花隈合戦など)が頻繁に行われた。 ・NHKの大河ドラマは観光施策には非常に有効で、大河ドラマで取り上げられた人や場所に関わる土地には必ず観光客が来る。大河ドラマは特に激動期が面白く、神戸ではそのような時期に必ず決戦が行われていた。つまり、どんな大河ドラマにも神戸は関わっているということ。そういうことから考えれば、神戸観光局に専任でなくてもいいので1人、大河ドラマ担当を決めておき、ノウハウを蓄積していくことが非常に大事になる。 ・「八重の桜」は新島襄の妻の八重の話だが、八重が新島襄の前に結婚していた男性のお墓が出石にあるというだけで、観光客が出石に行った。あまり知られていないが、明治の初めに新島襄名義の土地が神戸にあった。アメリカ人の教師が新島襄に名義を貸してもらい、土地を借りて開学したのが神戸女学院である。新島襄が亡くなった後、八重が相続し、所有者になっていた。そういうこともPRすればよかった。 ・「麒麟がくる」のときも、あの松永久秀が神戸にあった滝山城の城主だったことを全くPRしていない。 ・来年の「どうする家康」も神戸には関係ないと思われるが、家康の息子の秀忠は、結婚式の1週間前に有馬温泉に入っていた。何かでつなげたら必ず観光客は来る。ぜひ積極的に活用して欲しい。
	神戸・大阪間鉄道開通150年の活用		<ul style="list-style-type: none"> ・2024年は神戸・大阪間鉄道開通150年なので、これに合わせていろいろな企画を打ち出すべき。 ・例えば、関東にもなかった鉄道の遺産としては川底トンネルがある。石屋川、住吉川、芦屋川、湊川にあったが、これについては、当時、ロンドンの新聞で大々的に報じられているほど。ぜひ活用すべき。 ・明治7年の開通時、有馬温泉の最寄駅が住吉駅だったため、JR住吉駅の山手にある商店街を有馬道商店街といい、道標が多く残っている。昔の有馬道が住吉谷に入り、明治の初めに県道に指定された。150年に合わせて、こういう歴史を説明板にして設置したら面白いのではないか。 ・JR住吉駅の山手で二股に道が分かれ、その真ん中に古い道標で、左も右も有馬道と書いてある。こうした住吉川沿いの面白いルートも活用すべき。 ・和田岬線を廃線するという話があるが、和田岬線は間違いなく観光資源になる。鉄道150年では和田岬線も活用すべき。 ・交通に関するギネス記録的なものが神戸には多い。日本で最も短い国道が174号線、新幹線の上を地下鉄が通るといふ地下鉄名谷駅一学園都市間の立体交差など、交通ギネスで結びつけられれば確実に観光客は来ると思う。

① 大項目	② 中項目	③ 委員意見・質問	④ ③に対する参考人の意見
観光資源の活用	朝ドラの活用	<p>かつてNHKの朝ドラ「ゲゲゲの女房」の時に、兵庫区水木通に水木しげるのペンネームの由来になった場所があることを神戸市は一切PRしなかった。まさかあそこまでヒットするとは思ってなかったようで、後になって悔やんだと聞いている。来年の朝ドラの主役の牧野富太郎は会下山に住んでいたなど神戸と関わりがある。市立博物館や池長孟とのつながりもあるので、今度こそしっかりとアピールしてもらいたいと思うが、ご意見があれば伺いたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・かつて兵庫区に住んでいた水木しげるは、アパートの水木荘という名前からペンネームを付けた。その後引越した西宮市今津では、水木しげるの住んでいた家の跡に記念碑を建てている。本家本元の水木通には何もないので、ぜひ記念碑を造るべき。 ・神戸にゆかりのある水木しげると、鉄人28号の横山光輝、宝塚の手塚治虫とで連携して、何か企画できるのではないかと。日本のアニメは世界的に人気があるので、これはぜひやった方がいいと思う。
	ウォークラリー	<p>歴史資源の活かし方として、ウォークラリーを企画するというのは面白いと思う。その際に、どこか1か所でウォークラリーをすると、その時には一定の集客があっても、そこで終わってしまうイメージがある。市バスの八社巡りも今ひとつ広がりを見せなかった。そこで、例えば、市内の歴史資源（城、峠、川、滝、地名など）全てを網羅したようなウォークラリーを企画してはどうか。昔、国鉄時代に全ての路線を巡る人たちがいたが、例えばこれを全て達成するには2年かかりますというような、高い達成感を持てるラリーなどを企画したら面白いと思う。それに合わせて、神戸の観光資源全ての解説が1冊にまとめ、それを持って巡ってもらえるようなガイドブックを作成するというのはどうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・神戸は都会でありながら自然も十分楽しめるという他にない個性がある。例えば、城や滝などに関連して、区ごとやテーマごとに何コースか作ってみて、反響が大きければまた続編で増やしていくといった格好にしたらいのではないかと。 ・ガイドブックについては全ての情報を1冊にまとめるのは無理だと思うので、シリーズ化してはどうか。 ・先日、交通局の職員と仕事をしたが、八社巡りのことを知らず、非常に驚いた。担当者が異動したらそこで途切れてしまって、後任者に引き継がれていない。大河ドラマで「平清盛」が放映されていた時は、ドラマ館・歴史館の設置や清盛隊の結成など観光施策として打ち出していたが、終わったら解散してしまった。どんな企画でも一過性でなく、継続的にやっていくことが本当に重要。

■ 委員会の審議経過

《令和4年度の委員会活動状況》

- ◇ 第1回：令和4年6月24日
正副委員長の互選、理事の選出
- ◇ 第2回：令和4年7月25日
委員会運営方針の決定
- ◇ 第3回：令和4年11月17日
「歴史的資源を活かしたまちづくり」について意見聴取
(参考人：園田学園女子大学名誉教授 田辺真人氏)
- ◇ 第4回：令和4年12月19日
提言内容についての委員間討議
- ◇ 第5回：令和5年1月16日
提言素案についての委員間討議
- ◇ 第6回：令和5年1月31日
提言書案についての委員間討議
- ◇ 実地視察：令和4年8月19日
市内の歴史的資源である下谷上農村歌舞伎舞台、西国街道、湊川神社、
花隈城跡を実地視察
(講師：園田学園女子大学名誉教授 田辺真人氏)
- ◇ 行政調査：令和4年12月12日～13日
 - ① 広島電鉄(株)から、広島版 MaaS「MOBIRY(モビリー)」等について説明聴取
 - ② まちなか西国街道推進協議会から、西国街道の歴史と文化を活かした新たな賑わいづくりについて説明聴取
 - ③ (株)NOTE から、地域に眠る歴史資源を活かしたまちづくりについて説明聴取

《本委員会の設置について》

神戸市議会基本条例（平成 24 年 7 月 1 日施行）の制定に伴い、神戸市会初の試みとして、従来のように当局の政策を質すだけではなく、議会自らが議論を行い、政策提案を行うことを目指す「未来都市創造に関する特別委員会」が、平成 26 年 5 月に設置された。

委員会では、三宮周辺・ウォーターフロント地区における都心の再生や市街地西部地域などの活性化の原動力となる神戸独自の魅力をいかに創出するか、またその基盤となる潤いある都市空間の整備や新たな交通手段を含む総合交通体系の整備など、新たな時代の神戸のまちづくりに関する必要な事項を調査し、神戸の将来に大きく影響する課題に対し、議会として積極的に提言を行うこととしている。

《過去の委員会活動》

◇ 平成 26 年度

新たな時代の神戸のまちづくりに関する調査を行うため、「神戸の魅力」「都心の魅力」「若者の集う街」「産業振興」という 4 つのテーマを設定し、参考人を招致し、意見聴取及び意見交換、委員間討議を行うとともに、複数の委員をもって編成する班単位での実地調査等を行った。これらの調査活動を踏まえ、全 18 項目の提言をまとめ、市長に提出した。また、この提言内容等委員会活動の成果を市民に報告するため、本会議場において神戸市会初の市民報告会を開催した。

◇ 平成 27 年度

神戸の都心の未来の姿[将来ビジョン]・三宮周辺地区の『再整備基本構想』の策定に関し集中的に審査するため、当局からの報告聴取及び質疑を行った。また、推進体制として都心三宮推進本部が設置されたことに伴い、都心三宮推進本部会議及び各部会における議論の進捗や、市街地西部地域の活性化についても集中的に審査を行った。

◇ 平成 28 年度

平成 26 年度の市長への提言やこれまでの委員会活動を踏まえ、今後の神戸のまちづくりの方向性について多角的な観点から理解を深めるため、計 5 回の参考人からの意見聴取及び委員間討議を行った。また、都心再生の取組状況について、都心三宮推進本部から報告を聴取するとともに、公共交通や駅周辺整備に関する民間企業や他都市における先進事例の調査を行った。

◇ 平成 29 年度

特に、多様な立場の視点に立ったまちづくりを基本コンセプトとして、参考人からの意見聴取や委員間討議、都心三宮推進本部からの報告聴取等により調査・

議論を深めた。また、今後の都心・三宮周辺地区の再整備において数十年後にどのようなインフラが必要となるのか等を考察し、障がいの有無にかかわらず、すべての人々にとって移動しやすいまちづくりについて先進事例の調査を行った。

◇ 平成 30 年度

三宮再整備事業の進捗に伴い、新たな課題が浮かび上がってきたことから、あらためて議会の立場から提言を行うため、他都市にはない神戸らしさとは何かをテーマに、参考人からの意見聴取や当局からの報告聴取、他都市での実地調査を行った。こうした調査活動を踏まえ、委員間討議を重ねた結果、19 項目からなる提言書「未来都市神戸の創造に向けて」をとりまとめ、市長に提出した。

◇ 令和元年度

三宮再整備事業の事業期間が概ね 30 年間で、段階的にまちの再整備を進めていく事業であることから、30 年後である 2050 年の神戸が生き生きとした魅力あふれるまちであるためにはどんな視点が必要なのかについて、様々な観点から調査・議論を行い、提言書「2050 年を見据えた神戸のまちづくり」をとりまとめ市長に提出したが、新型コロナウイルス感染拡大後の様々な課題を踏まえた提言は次期以降の委員会に委ねることとした。

◇ 令和 2 年度

新型コロナウイルスの感染拡大により「ニューノーマル（新常態）」に対応したまちづくりが求められる中、神戸のまちづくりのあり方にどのような変化が起こるのか、感染症に強いまちづくりはどうあるべきかなどについて、幅広い観点から調査・議論を行い、23 項目からなる提言書「ポストコロナ時代に適合した持続可能な神戸のまちづくり」をとりまとめ、市長に提出した。

◇ 令和 3 年度

新型コロナウイルス感染症を契機に、新たなライフスタイルが生まれ、多様なサービスが活用される中で、「災害に強く、様々な危機にしなやかに対応できる回復力・復元力（レジリエンス）の高いまちづくり」や「神戸ならではの歴史や地形を活かしたまちづくり」をテーマに、幅広い観点から調査・議論を行い、提言書「様々な危機にしなやかに対応できる神戸のまちづくり」をとりまとめ、市長に提出するとともに、市民報告会を開催した。